Vol.31　実は重要な、1 本弦上でのフレーズトレーニング

『10 分トレ』vol.31、始めていきましょう。

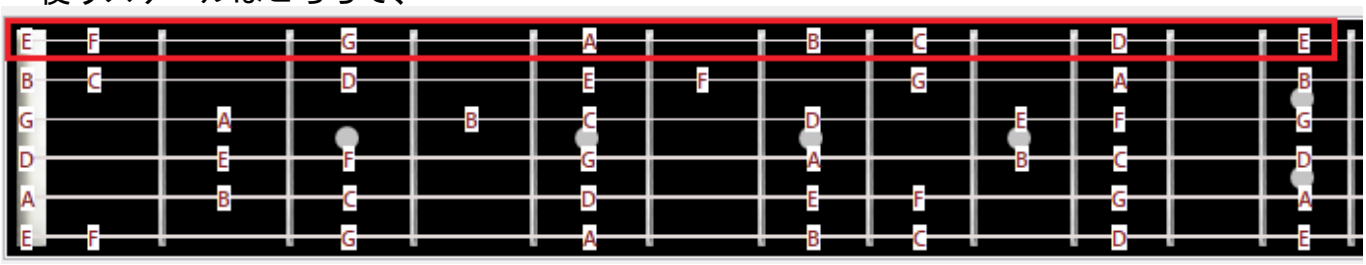
今回は、タイトルにもある様に、『1 本の弦だけを使い、フレーズ(メロディー)を弾いて行く』トレーニングです。

使う弦やスケールは何でもいいのですが、ここでは仮に、「1 弦上の C メジャースケール」で考えていきましょうか。

C メジャースケールを使う、と言う事は、キーとしては C キー的な状態での演奏ですね。

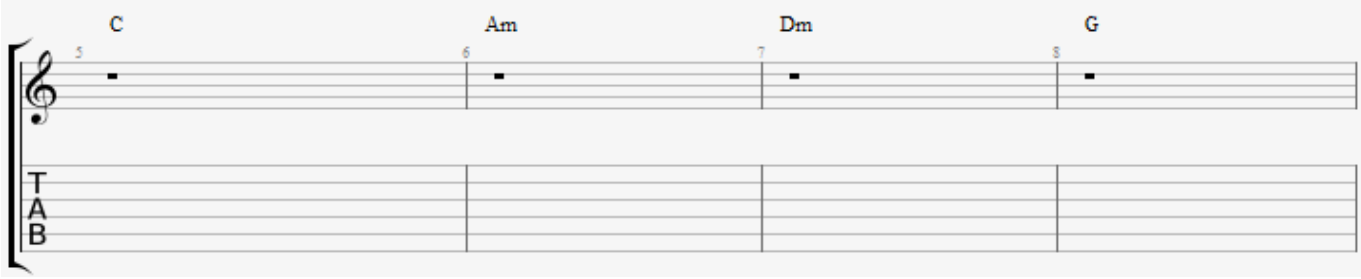
この練習は、バッキング無しのフリープレイでも可能ですが、今回は、レベルを上げてコード進行の上で行いたいと思います。

使うスケールはこちらで、



(※12 フレット以降も自由に使って構いません)

進行は、毎度お馴染みの 1-6-2-5 のループです。



(※想定テンポは BPM60～、ヴォイシングは自由に設定してください)

コード進行を想定する場合、実際にバッキングがあるのと無いのでは大違いなので、DAW やレコーダー、ルーパー等を使って、どうにかしてバッキングを用意しましょう。

もし、上記の機材が無い場合は、このブログ記事を参考にフリーソフトをダウンロードして下さい。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

では、実際の練習ですが、使う弦とスケールを固定する以外は、基本的には何をどう弾こうと自由です。

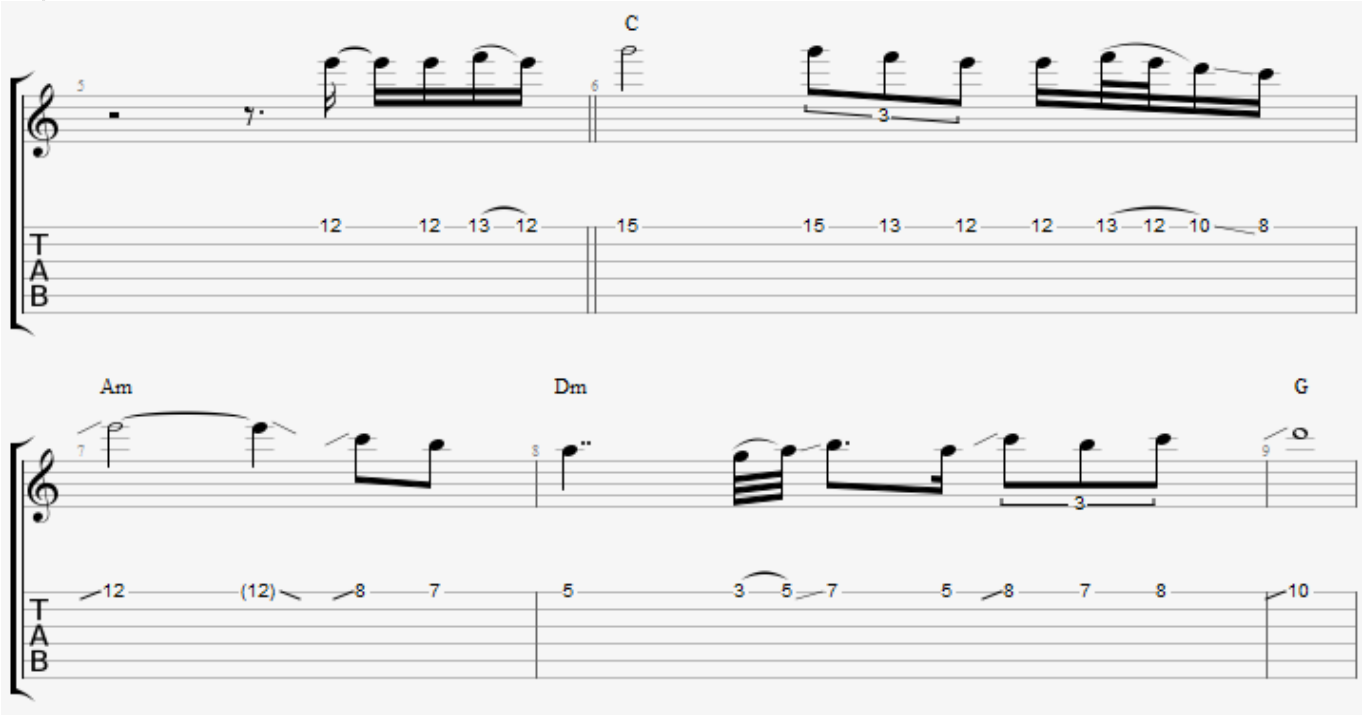
ですが、その条件だけでは、この練習から得たい効果、伸ばしたいポイント(能力)が曖昧になってくるので、1 つ縛りを加えましょう。

それは何かというと、「各コードの 1、3、5 度の何れかの音を狙ってみる」と言うものです。

例えば、C コードであれば、C、E、G のどれか、Am コードであれば、A、C、E のどれかを着地点にフレーズを弾いて行く、と言う事ですね。

試しに、全てのコードの 5 度の音をメインに狙ってみた譜例が以下です。

譜例



これは 5 度ばかりを狙っていますが、コードごとに狙う音を変えても良いですね。

別に細かく弾きまくる必要はないので、ロングトーンや休符も取り入れて、普通にメロディーを奏でてみましょう。

この練習の主な目的は、スケールポジションの縦の動き(かたまり)から解放される事、各コードに対して安定する音を手と耳で理解する事の 2 つです。

シンプルなアドリブの訓練でもあるので、実験的に色々と試す事も出来ますし、もっと複雑な練習に発展させる事も出来ます。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

1、3、5 度の音を狙うのに慣れてきたら、7 度やテンションも探ってみましょう。

他にも、使う弦をプラスしても良いですね。

テンポは一応遅めを想定していますが、実際の楽曲を想定するならば、それなりに早いテンポで練習するのもありです。

縛りや制限の範囲次第で、様々な効果を狙える練習ですので、思いついたものがあればどんどん試してみて下さい。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved